

ご自由にお持ち下さい。

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

najyodasu なじょだす

Vol.61

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

盛岡赤十字病院広報誌 vol.61

【なじょだす】(岩手の方言)

相手の健康を気づかうなど、「いかがですか」の意味。
当院のシンボルツリーのコナラの木は、正面玄関前にそびえ立ち、
訪れる人々に「なじょだす」と語りかけているかのようです。



令和5年度 盛岡赤十字病院 入社式

研修医含め44人が新しく入社しました!
よろしくお願いします!

特集

院長 新年度挨拶
副院長 就任挨拶

● 地域医療連携室よりお知らせ
連携医療機関のご紹介

● 適正受診啓発マンガ みんなで守ろういわての医療

● **連載** 健康応援レシピ ● **連載** 医訪人 感染管理認定看護師



「アフターコロナ」へ向かう春

院 長 久保直彦

日ごとに春めいて桜の便りが待ち遠しい頃になりました。4月になりますと研修医、看護師、医療技術者、事務職など多くの新入社員を迎えます。皆様とともに大きく育てていきたいと思いますのでよろしくご指導をお願いします。

さて、3年にも及ぶコロナ禍に大きな変化が起きています。オミクロン株になり、昨年夏と年末年始にかけて2つの大きな波がありましたが、重症患者は少なくなり、2月から感染者数が大きく減少しました。3月13日にはマスク着用は個人の判断に委ねられました。また、5月8日には感染症法の2類相当から5類になります。感染した患者の隔離などの強制措置は無くなり、医療費が自己負担になるなど医療制度も変わって来ます。当院では患者さんなどハイリスクの方を守るため、引き続き院内でマスクの着用をお願いしています。また、当院が行ってきたコロナ患者の診断、外来、入院治療とワクチン接種については、今後、県、市など自治体と協議して必要とされる役割を務めます。世の中は「ウィズコロナ」いろいろなイベントも通常通り行われ、外出、旅行するひとも増えて、花見にも多くの人出が予想されます。医療の現場は当分「ゼロコロナ」対策を取り続けますが、患者さん、ご家族と医療者のコミュニケーションを第一と考えて、対話する機会を増やし、また面会の禁止措置などを徐々に緩和していきたいと考えております。また、このまま感染が落ち着けば、4年ぶりに夏の「さんさ踊り」に参加するなど病院のイベントも再開できることを期待しています。

「アフターコロナ」とは、コロナ前に戻るということではなく、コロナのような感染症の存在を前提とした生活を今後も継続していくこととされています。5類になってもコロナは消えるわけでもありませんし、また感染が増えたり、新しい変異株の出現があるかもしれませんので油断はできません。自分の家族や周りのひとに配慮した感染対策は今後必要です。そうしていれば、いつの間にか「アフターコロナ」になっていくのではないのでしょうか。



副院長就任挨拶

副院長 一戸 克明

令和5年4月1日付けで盛岡赤十字病院副院長を拝命いたしました一戸克明と申します。
私にとっては大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。整形外科医として平成18年4月に赴任し17年が経過しました。赴任前、当科は岩手県屈指の脊椎専門病院でしたが、脊椎疾患だけにかかわらず外傷、関節外科、スポーツ整形外科などいわゆる一般整形外科診療にシフトすることを目標とし実行してまいりました。しかし、東日本大震災、新型コロナウイルス感染症の災害災難に苛まれ一般診療が停滞し医療を提供したくても提供できないことが幾度かありました。当院には「人道・博愛の赤十字精神にもとづきみなさまの生命と健康を守るために信頼される医療の実践」という基本理念があります。この基本理念を再認識し、可能な限り信頼される医療を提供し地域医療に貢献したいと思っております。今後とも地域の皆様、各医療機関の皆様、病院職員の皆様からのご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

岩手県医療政策室 発行

岩手県在住のマンガ家
田中美菜子さん随筆！

適正受診 啓発マンガ みんなで守ろういわての医療

みなさんは岩手の医療について考えたことがありますか？

今回、岩手県では地域医療を守る取り組みとして、若年層への適正受診の重要性を普及啓発するためにこちらのマンガを作成しました。

岩手県立中央病院 宮田院長と当院久保院長が取材に応じ、久保院長は救急医療の現場の状況や適切な救急利用についてお話ししました。

既に岩手県のホームページ上で公開されております。この機会にぜひ御一読ください。（総務課）

マンガ電子版はこちらから
閲覧可能です！





マスク着用のお願い



令和5年3月13日以降のマスク着用は個人の判断に委ねられることとなっておりますが、厚生労働省では医療機関受診の際や高齢者など重症化リスクの高い方が多く入院・生活する医療機関、高齢者施設などへ訪問する際はマスク着用を推奨しております。

患者様の安全や健康を守るため、当院へご来院の際は引き続き院内でのマスク着用にご協力いただきますようお願いいたします。

院長 久保 直彦



地域医療連携室よりお知らせ

地域を
結ぼう

紫波整形外科クリニック

2022年に開院しました。地域の皆さんへ安心頂ける医療を提供します。検査結果はできるだけ分かりやすく説明すること、治療方針は患者さんと相談して決定することを心掛けています。

【アピールポイント】

MRI、全身骨密度検査、エコーなど、必要な検査が当院でその日のうちに完結できます。治療もエコーを用いた注射等、確実・安全な手技を取り入れています。理学療法士によるリハビリテーションをしております。



院長
多田 広志 先生

- 〒020-3305 岩手県紫波町日詰字東裏20番2 ●TEL：019-656-1150 ●<https://shiwa-seikei.com/>
●外来診療時間（火曜日～土曜日） 受付時間 午前 9:00～11:30 午後 13:00～16:30 ※日曜・月曜休診



患者さんの状態、必要に応じて適切な医療を提供しています

■連携医療機関のご紹介

当院では、国の掲げる「医療機能の分担及び業務の連携」の方針に従い、病状が安定した患者さんについては、「かかりつけ医（地域の医療施設の先生方）」を持つことを推奨しています。

普段は「かかりつけ医」に受診し、高度な検査や手術、入院治療が必要な場合は当院を受診していただく医療機関間の連携を行っています。

健康応援レシピ

54

酢を取り入れて疲労回復♥

酢は様々な料理の味のアクセントとして利用されることが多いですね。特に高血圧症などで塩分摂取に注意が必要な方には「酢」は塩分が少なくても美味しく味付けできる調味料として重宝されます。ですが、「酢」はそれだけではないのです。今回は「酢」について紹介します。

強い殺菌効果があります。
酢の中では多くの細菌が比較的短時間で死滅します。そのため、食品の腐敗防止や食中毒の予防に有効です。



鉄の吸収をアップします。
鉄の多い食品と一緒に摂るとその吸収率を大きく高める効果があります。

疲労回復に効果があります。
酢の主成分の「クエン酸」には糖の代謝に関わって、エネルギー供給をスムーズにし、疲労物質である乳酸の生成を抑える働きがあります。

酸辣湯（サンラータン）

酸味が食欲を増進!!

〈材料：2人分〉

豚肉……………	120 g（細切）	溶き卵……………	2 個分
生しいたけ……………	20 g（せん切）	水……………	500CC
水煮たけのこ……………	40 g（細切）	中華スープの素（顆粒）……………	14 g（小さじ4杯）
人参……………	20 g（せん切）	塩・こしょう・ラー油……………	適宜
ねぎ……………	20 g（斜め切）	酢……………	大さじ 2 杯
ごま油……………	10 g（大さじ 1 杯）		

〈作り方〉

- 鍋にごま油を熱し、豚肉を炒める。火が通ったら、野菜と水、中華スープの素を加え煮る。
- 火が通ったら塩、こしょう、酢、ラー油で味付けし、溶き卵を回し入れて完成。



いろいろ野菜を加えてもいいですよ。酢もいろんな種類があるので、料理のアレンジの幅が広がります。ぜひお試しください。

〔管理栄養士 藤原〕



離任式を執り行いました

令和5年3月31日に離任式を執り行いました。杉村前副院長をはじめ計33名がご退職されました。また、2名の研修医が当院での研修を修了し巣立っていかれました。皆さん新たな場所でもお体に気を付けてご活躍ください!!



離任式にご参加して下さった皆様



退職者代表挨拶 杉村 好彦 前副院長





感染管理認定看護師
杉村 明子

感染管理室の仕事を紹介いたします。この仕事は一言でいうと、病院内外の感染予防を推進することです。具体的には、感染症の伝搬防止に関すること、抗菌薬の適正使用の推進、薬剤耐性菌等の検出状況の監視、手指消毒剤使用量の調査と適切なタイミングでの手指衛生実施の推進、医療器具関連感染や手術部位関連感染のデータ分析とフィードバック、感染予防のための院内ラウンド、職員への感染防止対策の教育、院内感染対策マニュアルの改訂と周知など、感染に関わるすべてのことを仕事にしています。院内では組織を越えて全職員に感染予防の働きかけを行います。私には感染予防対策を実働する頼れるチームがあり、看護師だけではなく、医師、薬剤師、臨床検査技師、事務員のメンバーとともに日々、連携を図りながらチーム力を発揮して感染予防に邁進しています。

この3年間は、平時の仕事にプラスして、新型コロナウイルス感染症の流行に翻弄されつつも、職員が一丸となって対策を講じ、アウトブ

レイクにも対処してまいりました。まさに災害時のような状況だったと振り返ります。流行当初は、医療関係者でさえ恐怖を感じた新型コロナウイルス感染症でしたが、今は「With コロナ」と言われ、コロナウイルスと人々の日常生活を共同させる時代となりました。病院では感染リスクはなくなりませんので、これからも気を引き締めて一層、感染予防に努めていきたいと思います。

また、地域の感染防止対策を向上させる目的で近隣の医療施設と感染に関わる連携も行っています。連携している病院間で相互にラウンドし、厚生労働省から提示されているチェック項目に則って感染対策が一定のレベルに達しているか評価し合い、できていない部分は改善を求められます。そして、この連携は年に4回のカンファランスを行うことも義務付けられています。2022年度は地域の医療施設12施設と保健所や医師会も参加して、感染防止のための5S活動、手指消毒の推進、新興感染症の発生等を想定した訓練などを実施しました。カンファランスでは施設間の意見交換が活発に行われています。

今後は、感染防止対策の質をさらに向上させることを目標に活動します。感染防止対策の向上への取り組みは終わりがありません。課題が多く地道な仕事ではありますが、感染管理室でしかできない仕事です。これからも感染防止を通じて安全で安心な医療を提供できるよう努力したいと思います。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

盛岡赤十字病院

〒020-8560

岩手県盛岡市三本柳6地割1番地1

Tel.019-637-3111 Fax.019-637-3801

広報誌「なじよだす」Vol.61 令和5年4月1日発行

編集／発行 盛岡赤十字病院広報委員会

藤原 純、松葉真紀子、川村美奈子、田中 陽子
富岡 幸子、梅村 景太、平 苑佳、北條 佳苗
武田 一成、板橋 亨一、齊藤 純子

盛岡赤十字病院

検索